國學院大學学術情報リポジトリ

〔取り組みリポート〕学生ファシリテイター配置によるグループワーク形式授業の学習支援効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星野, 広和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002122

取り組みリポート

学生ファシリテイター配置によるグループワーク形式授業の学習支援効果

星野　広和

【要　旨】

本稿は、國學院大學経済学部のグループワーク形式授業である基礎演習Ｂにおいて、学生ファシリテイター（以下、FAと略記）の学習支援行動が受講生に対してどのような影響を及ぼしているかを検証したものである。本稿では、FAの学習支援行動を表す因子として「リフレクション･サポート」と「ストレッチ･サポート」を抽出し、受講生が基礎演習Ｂから得るものとして、「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」を抽出した。FAの学習支援行動を独立変数、受講生が得るものを従属変数として回帰分析を行った結果、FAの学習支援行動が受講生に影響を及ぼしていることが確認された。また、FAの学習支援行動の加算平均における上位クラスと下位クラスとでは、有意に上位クラスの方が受講生が得るものの平均値が高いことが分かった。

【キーワード】

グループワーク形式授業、学生ファシリテイターの学習支援行動、リフレクション・サポート、ストレッチ・サポート

１．はじめに

本稿の目的は､平成28年度の「学部学修支援事業」の目的である､学生ファシリテイター（以下、FAと略記）配置によるグループワーク形式授業の学習支援の概要を説明し、客観的な分析をもとにその効果を検証することである。結論を先取りすれば、FAの学習支援行動は受講生が得るもの、特に大学生の学習基盤、能動的な学習態度、学術への興味関心、に対して影響を及ぼすことが確認された。

２．学生ファシリテイター配置によるグループワーク形式授業について

（１）学生ファシリテイター配置授業

平成28年度「学部学修支援事業」の目的は、経済学部のグループワーク形式授業実施に際し、履修している学生の支援を行う学生ファシリテイターを配置することであった。一般的に課題解決型授業（PBL）といわれるグループワーク形式の授業を実践する際にFAを１クラスに１名ずつ配置し、学生の議論の活性化を促すとともに、学習の支援も行うことを目的としていた。対象となる授業科目は「基礎演習Ａ」（１年前期)､「基礎演習Ｂ」（１年後期)､「経営学特論（リーダーシップ)」（１年後期)､「経営学特論（ビジネスデザイン

１)」（２年前期）である。なお、平成28年度より「基礎演習Ａ・Ｂ」において全クラスでグループワーク形式を取り入れ、FAを配置することになった。

（２）基礎演習Ｂの講義目標・計画

平成28年の基礎演習Ｂでは、専門教育への導入・問題意識の養成をテーマとし、グループワーク形式によって外部組織から与えられた課題解決を図ることを目的とした。その際、基礎演習Ａにおいて学修した基本的スキルを前提にして、「答え」がない課題に取り組むことになり、自ら積極的に調べ、考え、他者との議論を通じて精緻化していかなければ解決策は立案できない。平成28年度は、ポッカサッポロフード＆ビバレッジ株式会社に協力をお願いし、「『レモン』（または商品名で「ポッカレモン100」）を食卓（日本市場）で今よりも多く使ってもらえるようにするにはどうしたらいいのか具体的に考える」という課題を提供していただいた。

（３）FA業務

この目的を達成するためのFAの業務内容として、授業時には、①グループワークをサポートするファシリテイター、②グループワークの時間を管理するタイムキーパー、③授業前の機材の準備などを担う。授業時間外には、①学生の授業準備のサポート役、②大学生活の相談にものるピア・サポーター、③クラス担当者会議に参加し教員と共に授業改善に取り組む役割、④先輩FAが後輩FAを指導することによりFA同士での経験を共有し育成を図る、ことがある。この内容をもとに、当該授業のすべての時間にFAを配置し、さらには公式・非公式を含め複数回の研修を行っている。

３．アンケート調査について

（１）調査目的

調査は國學院大學経済学部基礎演習の科目改善とFA制度化に向けた検討材料を提供してもらうため、株式会社イノベストに調査を依頼し、平成28年度後期の基礎演習Ｂの受講生に対するアンケート調査結果（基礎演習Ｂの最後の授業で実施）と授業見学結果をもとに、どのようなFAのいるクラスが高い学習効果を生んでいるかについての報告を受けた。

（２）調査の概要

イノベスト社は、基礎演習Ｂを受講した学生に対し、FAの学習支援行動と基礎演習Ｂから得たものに関して、アンケートをもとに調査を行った。アンケートは、各クラスの任意で実施し、全351名（男子252名、女子99名）から回答を得た（図表１参照）。以下、イノベスト社によるアンケート調査（「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とFA制度化 総括レポート」）をもとに、調査概要および調査結果を記述する。

学科別の回答者内訳				
性別	経営	経済ネットワーキング	経済	合計
女性	35	21	43	99
男性	56	52	144	252
合計	91	73	187	351

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とＦＡ制度化　総括レポート」、p.2.

図表１　アンケート回答者の学科別内訳

この調査では、ＦＡの学習支援行動を測定する調査項目として、松尾睦（2014）の「職場のリフレクションを促すリーダーシップ」を参考にしている(1)。質問紙には「受講生への個別配慮・自由な発言の奨励・問題分析と解決策立案・目標ベースの内省・解決策の実行支援」の５項目からなる23設問を使用した。その他、「ＦＡのリーダーシップ」や「ロールモデル」などイノベスト社が独自に採用している調査項目を追加している。

受講生が基礎演習Ｂから得たものに関しては、基礎演習Ｂが明確な学習目標を整備中(2)であるため、イノベスト社が他大学のリーダーシップ開発プログラムで使用している調査項目、具体的には「学習姿勢」「学習効果」「帰属意識」３項目からなる12設問を使用した。また、「ＦＡ志望」や「ＦＡの満足度」「教員の満足度」に関する設問も加えた。回答の際には、「５　とても当てはまる」「４　当てはまる」「３　ほぼ当てはまる」「２　あまり当てはまらない」「１　当てはまらない」から、１つ選ぶ単一選択方式で回答するようにした。

４．アンケート調査の結果と分析

（１）各設問への回答

各設問への回答スコアの加算平均を調査項目ごとにまとめたものが以下の図表である（図表２、３参照）。クラスによって回答者数にバラツキがあるため、分析の限界があることは留意すべきであるが、次のような傾向は見て取れる。なお、「経営Ａ」は「経営学科」の「Ａ組」を表すが、クラスが特定できないように、ランダム化した上で各クラスにラベルをつけている。

１）学年全体の平均値とクラス別の平均値を比較した結果、学年全体の平均値を超えた調査項目数において「経営Ｄ」「経営Ｆ」「経ネＡ」「経済Ａ」「経済Ｃ」が上位クラスであったこと。

２）一方、十分なサンプル数をもつクラスの中で「経営Ｂ」「経済Ｅ」「経済Ｇ」「経済Ｈ」「経済Ｉ」が下位クラスであったこと。

項目	座数	受講生への個別的配慮	自由な発言の雰囲気	問題分析と解決立案	討論ベースの内容	解決策の実行支援	FAのリーダーシップ	学習意義	学習効果	積極参画	ロールモデル	FA管理	FA満足度	教員満足度	全体平均以上の項目数
全体	351	4.51	4.47	4.40	4.32	4.35	4.37	4.00	3.91	3.98	3.76	2.94	4.49	4.30	／
経営A	5	4.44	4.27	4.34	4.20	4.07	3.93	3.93	3.91	3.80	4.10	3.40	4.60	4.00	3
経営B	10	4.16	4.50	4.19	4.00	4.13	4.26	3.96	3.92	3.94	3.47	2.83	4.06	4.17	1
経営C	19	4.63	4.54	4.38	4.37	4.30	4.46	4.04	3.97	3.88	3.79	2.74	4.53	4.47	8
経営D	10	4.53	4.54	4.40	4.41	4.39	4.39	4.00	4.02	4.03	4.03	3.61	4.61	4.39	12
経営E	9	4.51	4.41	4.33	4.15	4.37	4.37	3.89	3.84	4.06	3.89	3.33	4.56	4.56	8
経営F	16	4.70	4.69	4.81	4.69	4.75	4.77	4.33	4.31	4.47	4.13	3.38	4.69	4.31	10
経営G	6	4.27	4.39	4.21	4.33	4.56	4.50	4.00	4.05	4.17	3.67	3.17	4.67	4.17	7
経ネA	24	4.60	4.51	4.52	4.54	4.53	4.50	4.43	4.32	4.25	4.08	3.58	4.71	4.54	13
経ネB	23	4.71	4.68	4.60	4.45	4.49	4.59	3.99	4.02	3.99	3.76	3.26	4.52	4.26	10
経ネC	2	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.33	2.93	2.50	2.50	1.00	3.00	3.00	0
経ネD	17	4.73	4.61	4.53	4.29	4.33	4.29	4.16	4.05	4.03	3.97	2.53	4.62	4.35	9
経ネE	6	4.43	4.50	4.14	4.22	4.28	4.11	3.83	3.48	3.92	3.00	2.33	4.50	4.33	3
経ネF	1	4.20	4.00	4.14	4.00	4.67	4.67	5.00	4.00	4.50	3.00	4.00	5.00	4.00	7
経産A	25	4.45	4.48	4.47	4.37	4.53	4.47	4.12	4.06	4.10	3.96	3.00	4.64	4.60	12
経産B	19	4.26	4.16	4.14	4.11	4.23	4.26	3.95	3.90	3.97	3.79	3.21	4.16	4.32	4
経産C	24	4.86	4.82	4.66	4.67	4.69	4.81	4.36	4.16	4.25	4.08	3.00	4.79	4.92	13
経産D	16	4.71	4.56	4.54	4.52	4.40	4.44	3.58	3.82	3.72	3.94	2.69	4.81	4.31	9
経済E	21	4.42	4.32	4.64	4.41	4.39	4.11	3.70	3.61	3.89	3.87	2.48	4.39	3.91	3
経済F	23	4.59	4.52	4.41	4.14	4.36	4.41	3.86	3.77	3.93	3.57	2.17	4.52	4.65	7
経済G	23	4.14	4.20	4.19	4.09	4.12	4.15	4.02	4.01	3.98	3.86	3.09	4.09	4.05	4
経営H	18	4.14	4.19	3.86	4.00	3.94	3.94	3.44	3.48	3.78	2.86	2.50	3.94	3.22	0
経営I	18	4.33	4.30	4.16	4.17	3.96	4.11	3.86	3.84	3.61	3.33	3.00	4.28	4.22	1

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とＦＡ制度化　総括レポート」、p.3.

図表２　アンケート結果（加算平均一覧表）

受講生への個別的配慮	私のクラスのFAは、授業中一人ひとりに、よく声をかけていた
	私のクラスのFAは、受講生の授業に参加する姿勢をしっかり見ていた
	私のクラスのFAは、受講生の考え方を理解するように努めていた
	私のクラスのFAは、受講生の質問や相談を積極的に受け止めていた
	私のクラスのFAは、授業中の自由な発言を許していた
自由な雰囲気の醸成	私のクラスのFAは、全体及びグループワークの最後の振り返り、受講生全員がリラックスして聞く姿勢を持つように配慮していた
	私のクラスのFAは、ペーシングよくボケやツッコミなどで、雰囲気重視を引き出していた
	私のクラスのFAは、授業中に笑顔に導いてくれた
課題分析と解決策立案	私のクラスのFAは、グループワークの授業など、うまくいくための方法を考えていた
	私のクラスのFAは、アイディアの出る雰囲気を作りながら、上手く行っていない点の原因を考えていた
	私のクラスのFAは、グループが苦戦している課題を解決するための助言をしていた
	私のクラスのFAは、授業中の改善点についてはっきりしていた
	私のクラスのFAは、なぜうまくいかなかったのか、次の場面を考えることでいた
	私のクラスのFAは、なぜうまくいったのか、成功の理由を考えさせていた
	私のクラスのFAは、ボケ続けしたり、失敗しないために、今後どうしたら良いかを考えるようにしていた
目標ベースの内省	私のクラスのFAは、授業で学んで欲しいことを明確にしていた
	私のクラスのFAは、授業でどんな振り返りシートを書くか具体的、確実、説明していた
	私のクラスのFAは、授業でどんな振り返りシートに記入し、記載後の、どのくらい充実しているかを示したり、受講生の成長を促していた
解決策の実行支援	私のクラスのFAは、前の授業後の話や休憩時間などの雑談などの中で、授業1一人ひとりの考えが自然に深められるように声掛けしていた
	私のクラスのFAは、受講生の質問内容への理解度に合わせて、授業や課題などの説明の仕方や進め方に調整していた
	私のクラスのFAは、受講生に学習して欲しいポイントを指導していた
FAのリーダーシップ	私のクラスのFAは、授業の説明等でミスをしても、すぐに自分で修正を行っていた
	私のクラスのFAは、必要に応じて自分で工夫を加えて展開しようとしていた
	私のクラスのFAは、気づいたことや自分の意見を積極的に質問と相談していた
学習姿勢	私は、FAが授業する前に、調査などの準備をしていた
	私は、FAが指導する課題を自分なりによって、人生のための投資でしっかりと学習しようとしていた
	私は、基礎演習を通じ、大学での学習意欲がより高まった
学習効果	私は、FAに対する質問や、多くのコメントを入れた
	私は、自分のクラスのFAのおかげで、自分の考えが明確化に成長したと実感している
	私は、自分のクラスのFAのおかげで、自分で新しい一歩を踏み出した
	私は、基礎演習を通じ、何かをしたり何かを見つけた
	私は、基礎演習を通じ、自分を向上させた
	私は、基礎演習を通じ、自分が何をやりたいのかを理解するための方法を学んだ
	私は、基礎演習を通じ、さまざまな場の異なる目的と意味が理解した
信頼感情	私は、基礎演習を通じ、クラスは協力を重ねるのにふさわしい人間関係だった
	私は、基礎演習を通じ、協力し合いに貢献しているという実感があった
ロールモデル	私は、2年生になったら自分のクラスのFAのようになりたい
	私は、自分のクラスのFAから、学んでいたいものがある
FA志望	私は、なるべくFAを志望したいと思った
FA貢献度	私は、自分のクラスのFAに満足している
教員満足度	私は、自分のクラスの授業に満足している

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とＦＡ制度化　総括レポート」、p.4.

図表３　アンケートの設問（一覧表）

（２）アンケート調査結果の分析

加算平均の上位クラスと下位クラスでは、FAの学習支援行動にどのような違いがあるかを検討するため、追加分析を行った。具体的には、探索的因子分析を行い、FAの学習支援行動と受講生が得たものに関する因子を抽出した（図表４参照）。その後、抽出した因子を用いて回帰分析を行い、FAの学習支援行動と受講生が得たものにどの程度の影響が与えられているかについて分析を行っている。最後に、因子を元に、再び上位クラスと下位クラスを設定し「受講生が得たもの」を従属変数、「FAの学習支援行動」を独立変数として一元配置分散分析を行った。

まず、FAの学習支援行動に関する因子分析だが、抽出には最尤法、回転方法にはプロマックス法を用いた。なお、因子決定数の決定には固有値１以上を基準として、スクリープロットの検証もあわせて２因子を仮定した。因子負荷量が .400以上を示す項目を各因子の解釈に用いたところ、十分な適合度を得ることができなかった。そこで、パターン行列を検証した上で、回答者の反応を混乱させると思われる項目と十分な因子負荷量を示さなかった項目（.400以下）を分析から除外し、再分析した。その結果、十分な適合度が得られたため（カイ２乗＝19.472、ｐ値＝.10）、２因子が妥当であると判断した。

第１因子には、「目標ベースの内省」と「問題分析と解決策の立案」に関する４設問が十分な因子負荷量を示した。受講生が学習目標を意識しながら経験から学びを得ることを

パターン行列（FAの学習支援行動）

設問 （私のクラスのFAは）	第1因子 リフレクション・サポート （α＝.91）	第2因子 ストレッチ・サポート （α＝.90）	共通性
授業で学んだ事柄について本事例にしている	0.94	-0.07	0.77
何が原因したり、失敗したときに、今後どうしたら良いかを考えさせている	0.76	0.10	0.71
授業で学んで欲しいことにほうし、場所全体で、どれくらい理解のできているかを確認しながら、授業1つ1つの改善を図っている	0.73	0.13	0.71
私のクラスのFAは、授業1つ1つの目標点について気づかせている	0.61	0.26	0.69
受講生の個別学習方法を効果的に活用している	-0.11	0.98	0.81
受講生の自由な発言を促している	0.16	0.68	0.66
タイミングよく励ましを加えるなどして、前向きな意欲を引き出している	0.21	0.67	0.72
授業中の考えや価値観を知るように努めている	0.30	0.58	0.70

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とFA制度化　総括レポート」、p.5.

図表４　FAの学習支援行動

支援する行動と考えられることから「リフレクション・サポート」と名付けた。第２因子には、「受講生への個別的配慮」と「自由な発言の奨励」に関する４設問が十分な因子負荷量を示した。受講生個々の違いを観察しながら学習に必要な行動を促す支援と捉えられることから「ストレッチ・サポート」と名付けた。各因子のアルファ係数は十分高く（リフレクション・サポート＝.91、ストレッチ・サポート＝.90）、信頼性も確認された。

次に、受講生が得たものに関する因子分析だが、FAの学習支援行動に関する因子分析と同様の方法を用いた。その結果、３因子で十分な適合度が得られた（カイ２乗＝3.078、ｐ値＝.38）（図表５参照）。すべての因子が「学習効果」と「学習姿勢」に関する設問から構成されていたが、第１因子は、自分の強みや弱み、自分への自信、大学で学ぶ意欲の高まりを表す因子であることから「大学生の学習基盤」と名付けている。第２因子は、FAの有無にかかわらず授業へ意欲的に参加しているかどうかを表す因子であることから「能動的な学習態度」と名付けている。第３因子は、ゼミ活動の理解や専門科目への興味の高まりを表す因子であることから「学術への興味関心」と名付けている。アルファ係数は、FAの経験学習支援行動と同様に十分高く（学習基盤＝.88、学習姿勢＝82、波及効果＝87）、信頼性が確認された。

FAの学習支援行動に関する因子として抽出された「リフレクション･サポート」と「ストレッチ･サポート」が受講生が得るもの、つまり「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」にどの程度影響を及ぼしているかを分析するため、ステップワイズ法による回帰分析を行った（図表６、７、８参照）。その結果、リフレクション・サポートとストレッチ･サポートの両方が５％水準で有意であった。ただ、Ｒ２乗が約15～20%と、

パターン行列（受講生が得るもの）

設問 （私は、基礎演習を通じ）	第1因子 大学生の学習基盤 （α＝.88）	第2因子 能動的な学習態度 （α＝.82）	第3因子 学術への興味関心 （α＝.87）	共通性
得意なことや 苦手なことが発見した	0.87	0.04	-0.05	0.72
自分に自信がついた	0.63	-0.09	0.28	0.66
大学で学ぶ意欲が ようさまった	0.56	0.19	0.22	0.81
大学のどの授業でも 意欲的に参加している	0.00	0.88	0.04	0.82
FAが強調する授業に 意欲的に参加している	0.01	0.77	-0.02	0.59
自分がゼミで どんな活動をしたいか 理解するきっかけを得た	0.01	0.00	0.94	0.90
学生同士の専門科目に 興味がきまった	0.21	0.09	0.59	0.70

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とＦＡ制度化　総括レポート」、p.6.

図表５　受講生が得るもの

ステップワイズ法による回帰分析の結果（大学生の学習基盤）							
	B	SE B	β	t	p	R2乗	調整R2乗
step1						0.220	0.228
リフレクション・サポート	0.55	0.07	0.38	7.80	0.00		
step2						0.230	0.234
リフレクション・サポート	0.36	0.11	0.25	3.06	0.00		
ストレッチ・サポート	0.25	0.12	0.16	2.00	0.04		

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とFA制度化　総括レポート」、p.6.

図表６　大学生の学習基盤

ステップワイズ法による回帰分析の結果（能動的な学習態度）							
	B	SE B	β	t	p	R2乗	調整R2乗
step1						0.269	0.266
リフレクション・サポート	0.68	0.06	0.51	11.3	0.00		
step2						0.284	0.280
リフレクション・サポート	0.45	0.10	0.34	4.57	0.00		
ストレッチ・サポート	0.30	0.10	0.21	2.78	0.06		

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とFA制度化　総括レポート」、p.7.

図表７　能動的な学習態度

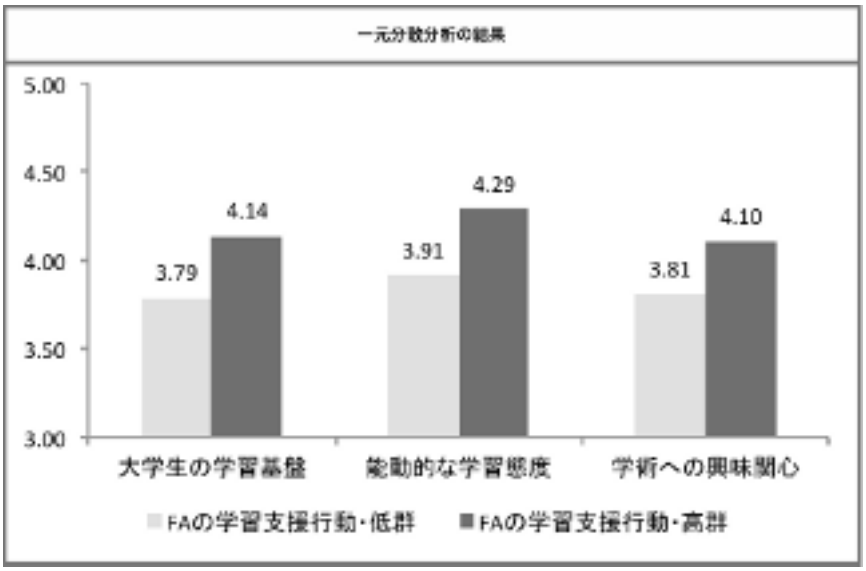
ステップワイズ法による回帰分析の結果（学術への興味関心）							
	B	SE B	β	t	p	R2乗	調整R2乗
step1						0.140	0.146
リフレクション・サポート	0.55	0.07	0.38	7.80	0.00		
step2						0.158	0.154
リフレクション・サポート	0.36	0.11	0.25	3.06	0.00		
ストレッチ・サポート	0.25	0.12	0.16	2.00	0.04		

（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とFA制度化　総括レポート」、p.7.

図表８　学術への興味関心

やや予測率が低い結果となった（学習基盤＝.23、学習態度＝.28、興味関心＝.15）。この結果となった理由として、教材や教員による介入、因子として抽出された行動以外のFAの学習支援行動（授業外での行動も含む）などその他の要因も大きく影響を及ぼしていることが考えられるが、リフレクション・サポートとストレッチ・サポートにあたるFAの行動が受講生が基礎演習Ｂから得るものに、少なからず影響を及ぼしていることが伺えた。

最後に、因子分析と回帰分析の結果を元に、FAの学習支援行動に関する設問の加算平



（出所）イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ科目改善とＦＡ制度化　総括レポート」、p.7.

図表９　ＦＡの学習支援行動が受講生に与える影響

均における上位クラス、中位クラス、下位クラスの受講生が得たものを対応なしの１元配置分散分析で比較した。その結果、上位クラスが５％水準で「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」の項目に置いて下位クラスよりも有意に高かった（図表９参照）。この結果から、上位クラスにおけるＦＡの学習支援行動によって、受講生が得るものに差が生まれていることが伺えた。

５．おわりに

本稿では、ＦＡの学習支援行動が受講生に対してどのような影響を及ぼしているかについて検証した。結果として、ＦＡの学習支援行動を表す因子として「リフレクション・サポート」と「ストレッチ・サポート」を抽出した。また、基礎演習Ｂから受講生が得るものとして「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」の３つの要因を抽出した。ＦＡの学習支援行動を独立変数、受講生が得るものを従属変数として回帰分析を行った結果、ＦＡの学習支援行動が受講生が得るものに対して影響を及ぼしていることが確認された。また、ＦＡの学習支援行動の加算平均における上位クラスと下位クラスとでは、有意に上位クラスの方が受講生が得るものの平均値が高いことが分かった。

今回の調査結果より、ＦＡの学習支援行動のなかでも、受講生が授業で経験したことを継続的に振り返られるように支援する行動を表す「リフレクション・サポート」と、授業のなかで振り返りの素材となるようなストレッチ経験を積むことを支援する「ストレッチ・サポート」がより受講生に対して強い影響を与えることが判明した。もちろん、この２つ

のサポートをFAだけでなく教員も全クラスにおいて意識しながら行動することが基礎演習の授業改善につながるといえよう。

最後に、アンケート調査からも理解できるように、全クラスに配置されるFAの能力や意欲などのバラツキをいかに低減させるかが今後の課題ともいえる。そのためには、FAに対する研修会やワークショップを通じてスキルや知識の定着を図ることは重要かもしれない。しかしながら、基礎演習Ｂをはじめグループワーク形式授業を指揮・展開するのはあくまでも教員であることから、教員のFAに対する理解を高め、FAとの相乗効果により教育効果を高めていく努力が必要であることはいうまでもない。

＜謝辞＞

本稿を作成するにあたり、株式会社イノベストのレポート（アンケート調査結果報告）を大いに利用させていただいた。この場を借りて、衷心より感謝の念を表する次第である。もちろん、用語使用や表現上の誤り等があれば、すべてそれは筆者の責任に帰す。

注

（1） この測定尺度は、企業マネージャーが会議等で「社員の育成・業務改善・業務遂行」を促すために実践している行動と、部下の視点から見た優れたマネージャーの内省支援行動を調査した結果をもとに作成されている。

（2） 2017年度のシラバスでは、「アカデミックスキル」の定着と「社会人基礎力」（ジェネリックスキル）の醸成が講義目標として設定された。

参考文献

イノベスト（2017）「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習Ｂ 科目改善とFA制度化 総括レポート」。

松尾睦（2014）「職場のリフレクションを促すリーダーシップ」『経営行動科学学会年次大会：発表論文集』（17）、187-192。